



施設概要	
建 立	江戸後期～明治前期
構造等	木造平屋建、瓦葺 建築面積342㎡
所在地	茨城県笠間市大郷戸378番地



交通のご案内

【お車の場合】

- 北関東自動車道 笠間西ICより
国道50号を水戸方面へ約15分
- 北関東自動車道 友部ICより
国道355号を笠間市街方面へ約20分

【電車の場合】

- JR水戸線 笠間駅よりタクシー約10分



国登録有形文化財
笠間藩主 牧野家ゆかりの古民家

富田家住宅

Registered Tangible Cultural Property of Japan
Tomita Family Residence

笠間市教育委員会
教育部 生涯学習課 文化振興室
〒309-1792
茨城県笠間市中央三丁目2番1号
TEL.0296-77-1101

富田家住宅は、近世民家を基本とした大規模で質の高い住宅です。屋根は入母屋造、棧瓦葺で、軒は豪壮な出桁造りです。瓦葺や複雑な軒廻りの構造など新しい要素が見られますが、広大な土間と書院座敷を併せ持つ特異な建築様式をしており、明治前期までに建築されたことは確実です。

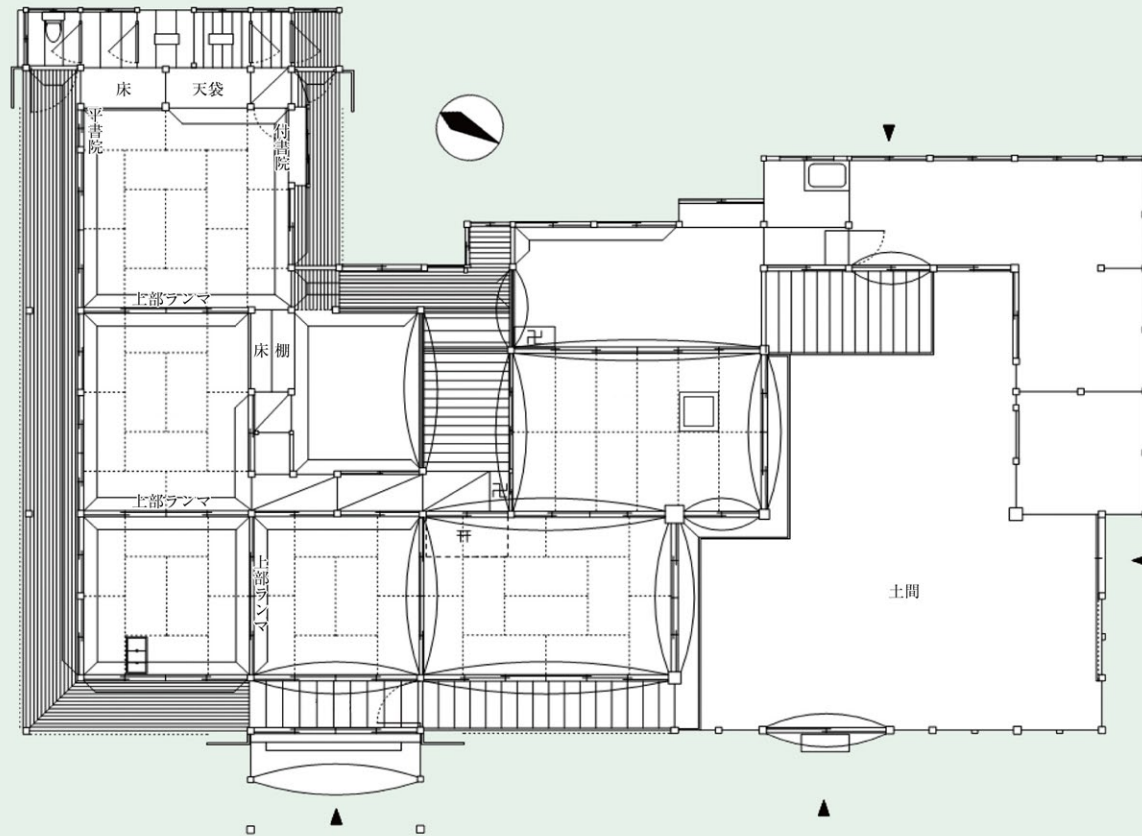
富田家住宅は、江戸後期から末期にかけて、笠間藩主牧野家と密接な関わりを持ちつつ建築されたと推測されます。例えば、藩主の滞在（狩猟に出かけた際の休息所など）を想定した建物として、牧野家から援助が与えられたのではないかと考えられています。





書院造

書院造では、書院の間を建物の中心としています。書院とは、前に明障子を立てて読み書きをするための場所で、書院の間には必ず設けられています。江戸時代の書院座敷は、賓客をもてなす応接間として使われました。



釘隠し

釘隠しは、長押や扉に打った釘の頭を隠すためにつけられた木製や金属製の装飾で、桃山時代以降は金銅、銅などで意匠を凝らした飾り金具が多く作られました。釘隠しの家紋「丸に三つ柏」は、江戸時代後期の笠間藩主・牧野家の家紋と同じものです。



平書院

元来、僧侶や貴族の書斎でしたが、江戸時代には床飾りの1つとなりました。縁側に張り出した付書院と張り出さない平書院に大別されます。書院障子の組子は華奢な作りですが、非常時に障子を突き破り、護衛が踏み入るための仕掛けと伝わっています。



付書院



式台玄関(本玄関)

式台玄関とは、公式の出入口に設ける低い板式部分のことで、駕籠からの乗り降りの際に足を汚さないために使われました。その上段には舞良戸という棧を横に細かい間隔で入れた引き違い戸が4枚設けられています。式台玄関は、書院造の様式美を表す見どころとなっています。



土間